

弟子入り修業を終えた

活躍中の若手職人さんに会いに行ったよ!



有限会社・堀川鑄金所の四代目・松本育祥さんは「荒川の匠育成事業」の第一期生。鑄金の伝統技術を持ち、父親でもある、荒川区登録無形文化財・松本隆一さんに弟子入りし、卒業。現在は親子二代で活躍しています。曾祖父の代から受け継いだ伝統や今後の夢など、お話を聞きました。



鑄金 松本育祥さん

小学生の頃から「将来はものづくりの仕事がしたい」と考えていた育祥さん。大学卒業後に鑄金の職人である父・隆一さんに弟子入りし、本格的に修業を始めました。鑄金は、高温で溶かした金属を型に流し込み、工芸品や芸術作品などを作る伝統技術。型作りや金属の温度など、経験を重ねることが技術を身につけるための一番の修業です。育祥さんは毎日、父・隆一さんと共に汗を流して働き、3年間の弟子入り修業を終えました。

「初代の曾祖父が鑄金を始めたのは、面白そうだったからだと聞いています。私が好きなことをやれば、初代も喜んでくれるはず」と育祥さん。「鑄金の技術を使えるものなら、何でも作ってみたい。今後は大きな銅像作りにもチャレンジしたいと思っています」育祥さんのお話には、鑄金への情熱があふれていました。

1982年、荒川区生まれ。大学卒業後、鑄金の道へ。工芸品から美術鑄造まで、幅広く手掛けています。



完成品をイメージして、原型を作ります。出来上がりに大きく関わる、重要な工程です



金属を高温で溶かし、型に流し込みます。炎と暑さに慣れることも修業のひとつ



金属を溶かして作る作品は、丸い形をしたもの、細かなデザインがあるものなど、独特の味わいがあります

「伝統は時代と共に変わっていくもの。昔のままなら良いというわけではありません」と父・隆一さん



伝統の技と心を受け継ぎたい～がんばる! 未来の職人さん

荒川区にある伝統工芸の技術はどのように受け継がれ、身につけるまでにどんな修業をするのだろう。荒川区登録無形文化財の木版画彫・関岡裕介さんの下で修業に励んでいる、弟子の馬場沙絵子さんを、第一日暮里小学校6年生のジュニア記者が取材しました。

修業風景を 見てみよう!



ジュニア記者が 匠の技を体験!

小刀を使って木版画の彫りを体験。線に沿って同じ深さで彫るのは難しい

完成した版画を紙にする体験をしました。版木に絵の具を塗り、和紙を置いて、全体をパレンでこすりす。その後、板の目に逆らうようにこすると完成です。うまくできるかな



真剣に作業をする馬場さん。曲線や難しい文字で彫る練習を重ね、自在に小刀を使う技術を磨きます



一日小6年の渡邊直輝くん(奥)と石田将大くん(手前)。関岡さんから、小刀の持ち方と使い方を教えてもらいました

毎日の練習が大切なんだね

色をたくさん使う版画は一色ずつするので、使う色の数だけ版木を彫ります。出来上がりをイメージしながら作業します



関岡さん・馬場さんに聞きました 師匠の教え 弟子の夢

師匠の関岡さんが、伝統技術を伝える上で最も大切にしているのは「常にベストの力を出す」こと。「満足せず、さらに良いものを作っていく姿勢が大事です。私たちの作品は後に残ります。だからこそ、常に細かく目を行き届かせて作らなければいけないんですよ」

弟子の馬場さんは修業5年目。「今は、

伝統技術を受け継ぐ師弟の絆を感じました

限られた時間の中で伝統技術をできるだけきちんと学びたいです。木版画彫師は本当に少ないので、この技術を未来につなげるために、日々頑張っていきたいです」と、話していました。



彫り終わったら、紙にすって出来上がりをチェック。修正して満足いく作品に仕上げます



木版画って面白いよ!

木版画の歴史を聞きました。「木版画は江戸時代では、写真みたいなものだったんだ!」



第35回 あらかわの伝統技術展 伝統の技・職人さんの技を見に行こう!



区内には、江戸時代からの伝統技術を持つ職人さんがたくさんいます。今回は約70人の職人さんが集まり、実演・展示・伝統工芸品の販売を行います。入場は無料です。みんなで見に行ってみよう!

日時 7月4日(金)・5日(土)・6日(日)

午前10時～午後5時

\*最終日(6日)は、午後4時まで

会場 荒川総合スポーツセンター

\*小・中学生が参加できるコーナーがあります

問合せ 荒川ふるさと文化館

☎(3807) 9234



職人さんの技を、目の前でじっくり見てみよう!

「若手職人作品展」を開催しました

4月26日～6月1日、荒川ふるさと文化館で「はばたけ! 若手職人作品展」を開催しました。「荒川の匠育成事業」で修業した方のうち、今回は修業4年以上のお弟子さん4人と、すでに卒業した若手職人さん5人の作品を展示。「匠の技を受け継ぎ未来につなげたい」という熱い思いがあふれていました。



若手職人さんが、一人ずつ順番に自分の作品について解説しました

お客さんに魅力を伝える馬場さん